

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 2023年2月7日

事業所名: オスリー

サービス種類: (児童発達支援・放課後等デイサービス)

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	活動スペース以外にも、必要に応じて、事務所机や、休憩スペースも利用している。	はい…13人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…1人	今後も活動スペースや活動スペース以外の所の環境整備に力を入れていきたい。
	2	職員の適切な配置	日によっては看護師、保育士、児童指導員が少ないこともある。	はい…10人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…4人	職員体制にもよるが、可能な限りは見守り職員をつけるようにしたい。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	段差はなく、バリアフリー化はできているが、視覚による情報提示は少ないように思われる。	はい…14人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…1人	トイレ前にマットとパーテーションを用意し、おむつ交換できるようにしていく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日、活動スペースの掃除、消毒を行っており、活動中も随時、消毒を行っている。	はい…15人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…0人	こまめな清掃、消毒はこのまま継続して行っていきたい。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎月1回、職員間でのミーティングを行い、情報共有、意見交換を行っている。		今後もミーティングを通じて意見交換を行い、質の向上を行っていききたい。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現状、行えていない。		今後は外部評価も取り入れていきたい。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	現状、行えていない。		コロナが落ち着けば、外部研修にも参加していききたい。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	利用開始前に、聞き取りシートを活用し、本人の思いや家族の思い等を確認し、それを踏まえたうえで支援計画の作成を行っている。	はい…14人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…0人	利用開始前はもちろん、今後はモニタリング時にもしっかりとアセスメントを行っていき、ニーズや課題の分析に力を入れていきたい。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの思いや状況に応じ、その子が楽しめるながら、成長もできるような支援計画を職員全体で考え作成するようにしている。	はい…15人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…0人	今後も日々の様子の共有を行い、職員同士の意見をすり合わせた上で支援計画の作成を行っていききたい。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	支援計画書には、具体的な支援目標と、それに対する支援内容を記載している。	はい…15人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…0人	今後はPT・OTの配属も検討していきたい。その際はしっかりと情報共有を行ったうえで実施していきたい。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援は基本的に支援計画に沿って行い、評価するようにしている。ただ、本人の可能性や成長を広げるためにも支援計画だけに捉われずに支援を行っている。	はい…15人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…0人	学校や家庭での状況も共有し、支援計画も本人の状況にあわせて、その都度、見直し、修正を入れていきたい。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	日々の活動以外にも、季節に応じた行事や外出等を計画し、実行している。	はい…12人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…3人	今後も通常のプログラムとは別にイベントや外出を行っていききたい。またコロナが落ち着けば、地域のイベント等にも参加していききたい。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日や長期休暇中は平日に行けないような外出やイベント参加等を行い、平日との区別を行っている。	はい…12人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…3人	今後も継続して行っていきたい。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	金、土曜日は音楽活動中心、月、火、水曜日は本読みや紙芝居等と、曜日によってプログラムを分けるようにはしているが、まだプログラム内容は少ないと思われる。	はい…12人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…3人	リハビリは今後検討していきたい。その際は上皮う共有を行い、日ごろ行っているリハビリと事業所内でのリハビリを合わせるようにしていきたい。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前にその日の担当職員を決めており、その日の流れや、医療行為の確認を行っている。		今後も作業開始前にその日の流れ、担当、医療行為の確認を行い、スムーズに業務できるようにしていきたい。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	大きなトラブルや問題があった時はその日のうちに振り返りや情報共有を行っているが、それ以外ではその日ではなく、翌日以降に行っている。		今後は出来る限り、その日のうちに振り返りを行えるようにしていきたい。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録は専用ソフトに入力を行い、時間と支援内容を記録している。支援の検証、改善はモニタリング時に行っている。		今後も支援の記録は続けていき、休み明けの職員も前日の記録を確認するように意識づけしていきたい。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月に1回モニタリングを行い、それを元に支援計画の見直しを行っている。		支援の検証、改善はモニタリング時はもちろんのこと、月1回のミーティング時にも検証できるようにしていきたい。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援事業所より連絡があった際には担当者会議に出席し、情報共有を行っている。		今後も相談支援事業所の会議に参加し情報共有を行うとともに、事業所での困り事等あれば相談するようにしていきたい。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	Drの往診が月1回あり、相談の場がある。		今後も月1回の往診を依頼し、Drと情報共有を行っていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・サマリー等の情報共有はできている。 ・Drによる月1回の往診で相談は可能である		今後も情報共有を行っていき、最新の情報を提供するようにしていきたい。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	4月から学校(支援学校)に進学予定の子どもがいるが、まだ十分な情報共有は行っていない。		必要な情報は発達支援センターに伝え、情報共有できるようにしていきたい。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現状、まだ学校卒業者はいないので、情報提供も行っていない。		今後、支援センターとも連携を強化し、情報提供、共有を図っていきたい。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現状、研修等できていない。		支援センターと連携を取り、研修や受講に積極的に参加していきたい。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ感染予防の為、保育園や幼稚園・児童館との交流は行っていない。	はい…5人 どちらともいえない…1人 いいえ…2人 わからない…7人	コロナが落ち着けば、地域と交流する機会を広げて行きたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ感染予防の為、地域住民の事業所への行事参加、見学等は行っていない。	はい…5人 どちらともいえない…1人 いいえ…2人 わからない…7人	コロナが落ち着けば、見学会やイベント等で地域住民を招待する機会を設けていきたい。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用契約時に支援についてや利用料金の説明は行っている。	はい…13人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…1人	支援の内容や、イベント等も家族の意向等もしっかりと聞くようにしていきたい。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	現状、簡単な説明のみで、支援計画を渡してから確認となっている。	はい…12人 どちらともいえない…2人 いいえ…0人 わからない…0人	今後はしっかりと説明を行い、疑問点や不明点等を確認していくようにしていきたい。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現状、行っていない。	はい…7人 どちらともいえない…0人 いいえ…4人 わからない…4人	送迎時や連絡帳等で保護者の困り事等を把握し、問題解決に努めていきたい。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時に口頭で事業所や家庭での様子の共有を行っている。	はい…12人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…2人	他利用者の送迎時間の関係や駐車スペースの問題等もあるが、できる限り会話する時間を取り、その日の様子や家庭での困り事等を聞くようにしていきたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	家族から相談があった際は丁寧に対応するように心がけている。また医療的なことについては看護師が対応している。	はい…7人 どちらともいえない…2人 いいえ…2人 わからない…4人	今後も家族とのコミュニケーションは大切にし、支援に関する相談、医療的な事に関する相談等、幅広く対応していきたい。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナ感染予防の為、保護者同士の交流の機会は開催できていない。	はい…5人 どちらともいえない…0人 いいえ…4人 わからない…6人	コロナが落ち着けば、家族会等の交流できる機会をもうけるようにしていきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	事業所に苦情受付窓口を設置し、対応するようにしている。苦情発生時にはその時の状況説明と今後の対応(対策)をお伝えしている。	はい…11人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…4人	今後も苦情が発生した場合は丁寧な説明・対応を心がけるようにしていきたい。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもたちとの意思疎通は2択、または3択等、本人に選びやすいよう配慮を行っている。また意思疎通が難しい子どもに対しては目や表情を見る等して、気持ちを汲み取るようにしている。 家族とは連絡帳を通じて情報共有を行っている。	はい…14人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…0人	連絡帳にはその日に行ったことだけでなく、その時の様子や反応等も記載し、より詳しくわかりやすくしていきたい。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	月1回、会報誌を作成し、家族に配布している。また活動中の様子を写真や動画で報告したり、送迎時に口頭で報告したりしている。	はい…8人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…6人	今後も月1回会報誌を作成し、事業所内での様子を伝えていく。また写真や動画も個別での報告を続けていきたい。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人ファイルは鍵のかかるキャビネットに入れており、必要時以外は外に出さないようにしている。また契約時に個人情報保護に関する説明を家族に行っている。	はい…13人 どちらともいえない…0人 いいえ…0人 わからない…2人	今後も不必要に個人ファイルを出さず、第三者の目に触れないようにしていく。職員に対しても個人情報保護の必要性・重要性を」伝えていきたい。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルの作成は行っていない。情報共有は月1回の会報誌や連絡帳等で行っている。	はい…8人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…6人	マニュアルの作成を行い、緊急時に慌てず対応できるようにしていきたい。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	現状、避難訓練は行っていない。	はい…5人 どちらともいえない…1人 いいえ…0人 わからない…9人	火災や地震等を想定した避難訓練を定期的に行っていききたい。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機種の確保等の適切な対応	虐待防止研修は年2回行うようにしている。		今後も最低年2回は行い、また必要に応じて職員のストレスチェック等も取り入れていきたい。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状、身体拘束は行っていない。今後、身体拘束の必要性が出てきた時は、法令を遵守して行っていきたい。		身体拘束発生時は家族に連絡することや、きちんと記録に残す等、法令を巡視して行っていきたい。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事やおやつは家族が持参しているので、食物アレルギーに対する医師の指示書は貰っていない。		おやつ、食事は持参が基本だが、イベント等で何か食べる機会がある時に備え、食物アレルギーのリスト等の作成をしていきたい。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事故やヒヤリハットの案件があった時はアクシデント報告書を作成し、職員全体での共有を行っている。		今後も事故やヒヤリハット案件があった時は報告書の記入、またその事故の分析、再発防止策を考えていきたい。